

NO. O S P R E Y 東京集会に参加！ オスプレイ配備撤回！普天間基地撤去！県内施設断念！

1月27日、日比谷野外音楽堂において、オスプレイ配備撤回を求める「NO. O S P R E Y 東京集会」が開催されました。私たちJR東海労は、この集会にJR総連の仲間たちと共に参加してきました。会場には4000名を超える市民や平和を求める団体、労働組合が集まり、オスプレイ配備反対を訴えました。

集会には、沖縄県からも41市町村の首長が参加し、「日本の僅か0.6%の土地に、駐留している米軍全体の74%の基地がある沖縄の痛みを知って欲しい。オスプレイは県民の反対を押し切り配備がされた。国民全体で配備反対の運動を身近な所から起こしてほしい」と訴えました。参加した沖縄県議会と41市町村は、議会で決議を取り、

28日に関係省・庁に要請行動を実施します。さらに安倍内閣総理大臣宛に、オスプレイ配備撤回、普天間飛行場閉鎖、県内移設断念を求めて『建白書』を提出する予定になっています。集会終了後、「オスプレイ配備反対！子供の命を守ろう！憲法9条を守ろう！」と銀座をデモ行進してました。

私たちは、平和な社会を実現するために、オスプレイは必要ないと思っています。また、自衛隊にも導入が検討され、軍事力増強へもつながり、憲法9条の精神を踏みにじることにもなります。まさに戦争の出来る国へと大きく舵を切ることになるのです。私たちは、沖縄県民と連帯し、大きく反対の闘いをつくりだしていくこととします。

沖縄の痛み 日本全体で考えて

首長や県議、銀座行進

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)への新型輸送機オスプレイの配備撤回を求め、沖縄の四十一市町村の首長ら代表者が二十七日、東京各地の市民を交えて反対集会を開いた。全国各地の市民を交えて約四千人が参加し、「過重な負担を強いられる沖縄の痛みを、日本全体で考えるべき」と訴えた。

国土面積のわずかの沖縄の熱いNOを訴えた。6%の沖縄に、米軍専用(政府は)県民の子弟(心)は日本は用施設の74%がある。圧倒的な声に耳を貸さず。県や県内全四十市町村で強行配備した。普天間は住宅地に近く、世帯が反対し、昨年九月、権に専断して、一帯で一番危険な基地に県民大会を開いたが、発言、オスプレイの危険と隣り合わせの沖縄直後の同十月にオスプレイの全性を懸念し、沖縄県民の生活を脅かす恐れが配属された。以外でも、米軍の飛行場、危険な飛行場、危険な飛行場に配属された。四十一市町村計画に入る地域は危険。武蔵野市の騒音、久米町、那覇市の首長ら代表者の一にされること。ん(心)は、沖縄の問題。ほかに、県議、沖縄県議会、那覇市の首長、志保、日本全体の問題。沖縄の国会議員らも沖縄県、長は、安倍首相が、沖縄に全体的に、怒りが、東京でも爆発、「日本を取り戻す」と。集会後、参加者は、超えて集まり、沖縄の昨年、衆院選で訴えた。ならないと語った。した。集会で、沖縄県、いうキャッチフレーズ、府は沖縄の声を聞け。議会の喜納昌彦議長は、に、この中に、声を上げな。一昨年の県民大会で沖縄は入っているのか。ら、銀座を行進した。



米軍普天間飛行場のオスプレイ配備撤回を求めデモ行進する参加者—27日午後、東京・銀座で

